11

12





●三河天平の里資料館

資料館内では、発掘調査での出土品の展示や映像によって三河国分尼寺跡をはじめ、国分寺・国府跡など力寿姫や大江定基が生きた古代三河国の中心地であった周辺地域の様相を解説しています。

❷9:00~17:00 個火曜日(祝日の場合は開館)、祝日の翌日、年末年始

♥無料 ☎0533-88-5881 ₽有り



●西明寺

大江定基が六光寺を開いたのが始まりとされ、境内の衆寮には大江定基がカ 寿姫の菩提を弔うため、愛染池畔にまつったとっされる愛染明王像が祀られ、縁 結びや家内円満など広く信仰されています。 **②**有り



●大社神社

平安時代(978~985年)の頃に大江定基が出雲大社より大国主命を勧請したのが始まりとされています。祭りは国府夏まつりとよばれ盛大に行われます。三河国府総鎮守の社として縁結びなどのご利益、キャラクター御守り、人形供養など広く親しまれています。



●音羽川

春には川岸にはソメイヨシノが咲き誇り桜の名所となっています。西部中学校付近の川岸には8月から10月にかけて白やピンク色の芙蓉の花を見ることができます。



5 国府観音

江戸時代に地中から発掘されたといわれる本尊は大須、浅草と同じく1寸8分(約5cm)の聖観世音菩薩で秘仏とされています。また、境内には撫でて願をかけると無病息災などに功徳があるといわれる撫佛(なでぼとけ)御賓頭盧(おびんずる)さまがまつられています。



八幡宮

社伝によると白鳳年間(7世紀後半)に大分県宇佐八幡宮から勧請されたと伝えられています。現在の本殿は室町時代(1477年)の建立で、室町期の神社建築の特徴を良く表現し、国の重要文化財に指定されています。



●三河総社

奈良時代に中央から派遣された国司は、国内の主な神社を巡拝する決まりがありましたが、これは国司にとって大変な仕事であったので、10世紀になると国庁の近くに国内の諸社を集めて、総社としたのが、始まりとされています。